

しいです。気軽に釣りができて、それを食べてもらえる施設もつくりたいです。

このような青のまちができれば、人が集まり、雇用が増え、みんなが住み続けたい松浦になると思います。松浦市では、今後たくさんの方の観光客を呼ぶために、私たちが提案した空き家や特産物、釣りを生かした施設等の建設は考えられていないのでしょうか。

【答弁】市長

釣った魚を調理して食べることで、松浦ならではの食材を使ったレストランやカフェなどを作ることは、夢のあるよいアイデアだと思いますが、これは、民間の方に取り組んでいただければと思います。

市としましては、空き店舗を活用して事業を始める方に対する補助制度もありますので、今後も、空き家や空き店舗の情報を収集し、レストランやカフェをやってみたいと思う方に情報提供を行い、改築費用への支援等、活用につながる支援策を考えていきたいと思っています。

鷹島のことを多くの人に知ってもらい、鷹島に行きたいと思ってもらうための取り組みについて

鷹島小学校

・松永 彩花^{あやか} 議員
・坂本ひかり 議員



▲松永彩花 議員

▼坂本ひかり 議員



【質問】松永議員

モンゴル村が開園していたときと現在を比較し、鷹島に来る1年間の観光客の数がどのように変わったか教えてください。

【答弁】地域経済活性化課長

モンゴル村が開園した平成5年の鷹島町の観光客数は、約6万7千人でした。その後少しずつ増加し、平成14年には、約13万5千人に達し、モンゴル村で

も延べ約5万5千人が施設を利用されました。平成15年からは年々減少し、平成20年には観光客数が約7万6千人となり、モンゴル村の施設利用者数も延べ約3万4千人まで減少しました。しかし、平成21年の鷹島肥前大橋の開通により、その年は約72万5千人もの観光客が鷹島を訪れ、モンゴル村の施設利用者数も延べ約56万9千人を数えました。

その後は減少傾向にあります。が、「道の駅鷹ら島」等にも多くの観光客が来場されており、観光客数は年間30万人台を保っている状況です。モンゴル村は、平成28年10月末に休園となりましたが、平成28年の鷹島の観光客数が約33万1千人に対して、平成29年の観光客数は約32万2千人で約9千人の減少となっており、平成30年の観光客数は約30万8千人で前年と比較すると約1万4千人の減少となっています。

【質問】坂本議員

観光客の減少には、モンゴル村が原因の一つだと思います。全校にも調査をしました。が、モンゴル村に以前のような温泉

施設やバイオパークと連携した取り組みを復活させてほしいと要望がありました。今後、そのような計画はないのでしょうか。

【答弁】市長

平成21年に鷹島肥前大橋が開通し、モンゴル村も多くの来場者でにぎわいました。その後は来場者が減少したため、平成27年から鷹島バイオパークが指定管理者として営業を行い、ペットアニマルワールド等を運営していましたが、入場者は伸びなやみ、経営も厳しく、平成28年10月末をもって休園となりました。

現在は、芝生広場やアスレチック施設などを無料開放しており、今年のゴールデンウィークには1千人以上の方が来場されるなど、今でもたくさんの方にご利用いただいています。市としては、重要な観光施設と考えており、再開を目指して、モンゴル村に関心を示されている民間企業と交渉を行っています。鷹島町の皆さんが、モンゴル村の再開を心待ちにされておりますので、今後も粘り強く取り組んでまいります。

【質問】 坂本議員

鷹島には、いいところがたくさんありますが、鷹島以外の人には知らないことが多いです。そこで、鷹島おすすめマップを作ったり、鷹島の公式インスタグラムを作ったりしてアピールするというのはどうでしょうか。

【答弁】 地域経済活性化課長

鷹島にはモンゴル村の他、国史跡鷹島神崎遺跡、市立埋蔵文化財センター、道の駅鷹ら島などの観光スポットや、本マグロ、トラフグなど、魅力がたくさんあるので、年間30万人以上の観光客が鷹島を訪れていると思います。特に食べ物については、「アジフライの聖地」が話題となっており、鷹島でも5店舗がアジフライマップに掲載されています。このように、鷹島だけでなく松浦市全体で魅力をPRし、観光客を呼び込むことが大事だと考えています。

SNSの活用については、埋蔵文化財センターがフェイスブックで、まっくら観光物産協会もフェイスブックやインスタグラムを活用し、観光地やイベントの情報を発信しています。

イノシシ被害の防止について

青島小学校

- ・ 上場真凧斗 議員
- ・ 田口 彩人 議員
- ・ 川下 和楓 議員



▲上場真凧斗 議員

▼田口彩人 議員



▲川下和楓 議員

【質問】 上場議員

松浦市全体において、イノシシの出没や被害についての報告は挙がっていますか。また、挙がっているとしたら、それはどのようなことですか。

【答弁】 農林課長

青島を含め、松浦市全体で毎年、イノシシの出没や被害が報告されています。また、民家等に出没したなどの報告が年に数十件あります。

主に農作物の被害報告が多く、水田に侵入し、イネを食べたり、踏み倒す等の被害や野菜を食い荒らす被害が多くあります。昨年度のイノシシによる被害は、年間143件、被害額はおよそ5百万円です。

【質問】 田口議員

今年に入ってから、青島小中学校のグラウンドにある土手が、イノシシによって頻繁に掘り崩される被害が発生しました。このことについて、市の教育総務課にご相談したところ、すぐにその対処に取り掛かってくださっています。講じてくださった対策は、どのようなものなのかを教えてください。

【答弁】 教育総務課長

イノシシによる学校グラウンド土手の被害について、教育総務課では関係各課と協議を行い、青島在住の猟友会会員の方を紹介してもらい、今後の対応につ

いて協議を行う中で、グラウンドへの侵入防止のためのワイヤーメッシュ柵を設置した方が効果的ではないかとの提案がございました。

ワイヤーメッシュ柵の設置については、地区およびPTAの皆さんで行っていただき7月8日に設置済みです。市では、青島住民の方のご協力に、深く感謝しているところでございます。

【質問】 川下議員

島の至る所でイノシシに出会う機会が昨年と比べて多くなりました。私たちも島の人たちも不安です。

小さな離島の中でイノシシが増えていくことに、危機感を覚えています。網や柵などを設置して防護する方法と併せて、捕獲して数を減らしてほしいと考えています。

【答弁】 市長

被害を減らすためには、イノシシをつかまえることが効果的です。また、わなの作製や購入、設置、日常の点検、餌まき、つかまえたイノシシの処理などの大変な労力と費用がかかります。市では、狩猟免許を持つ方の